

12. 第24回京都国際子ども映画祭の実施

グループ名 NPO 法人キンダーフィルムフェスト・きょうと

代表者 西村 達也

① 活動の目的

1. 子どもたちが、映画を通して世界の子どもたちの生活や考え方、歴史や文化を知り、世界への視野を広げること。
2. 子どもたちが、メディアリテラシーや自主性・創造性・国際性を身につけた人間に成長すること。
3. 多様なジャンルの作品を上映し、国内外からもゲストを招聘することで、子どもたちに、映画を通じた国際的な交流をしてもらうこと。
4. 本映画祭は、「映画の街京都」で、映画に慣れ親しむことから、京都のこれからを担う子どもたちが健全に成長していく一助となることを願い開催している。

② 活動概要

- ・本映画祭は、ベルリン国際映画祭ジェネレーション部門（子ども向け部門）や、世界子ども映画祭で上映された作品から長・短編数本を選定し、毎年8月に開催している。2018年は8/2～5の4日間 京都文化博物館で開催した。
- ・映画祭の特徴としては以下の項目があげられる
 - 1) 「子ども審査員」がグランプリを決定すること。
 - 2) 「子どもスタッフ」が運営準備や映画祭の司会進行を行うこと。
 - 3) 公募した一般の方々（子ども含む）が約2ヶ月のワークショップを受講し、短編の「生」吹替を行うこと。
- ・今年は、避難指示が解除になった福島の子どもたちを子ども審査員と呼ぶと事にチャレンジした。地元の友達とも十分に交流できない子どもを京都に招待して、京都の子どもたちと触れ合ってもらうことで、京都の子どもたちは福島のことを知る機会が生まれ、福島の子どもには遠く京都に友達を作る事を狙った。
- ・前回開催3日間を4日間にしたことを勘案しても入場者は増加した。特に短編映画上映時はほぼ満席状態となり主催側が慌てる一幕もあった。逆に長編上映時の集客と中高生の増加が課題である。
- ・前回に比べ理事・実行委員が一新し、その他大人のボランティアスタッフも大幅増加、大勢を巻き込み拡がりが出来た。結果プレスリリースの本格化や地域ラジオへの出演など経験値が高まった。
- ・集客＝周知強化のため、プレイベントを実施、生吹替えワークショップなど行う。プレスリリースにより京都新聞に掲載される。

- ・別途新聞掲載の影響もあり、吹替えワークショップは盛況で参加者は昨年比約 2 倍となり年齢層も広がった。
- ・子どもスタッフ、子ども審査員も応募が増加。選考に悩む状況となった。
- ・しかしながら、過去 23 回開催していることを考えると一般的な知名度に課題が多い。
- ・また、資金面でも試行錯誤している。多くの助成金・補助金・クラウドファンディングなど手法は模索中である。

③ 決算報告書

収 入	
大同生命厚生事業団助成金	100,000 円
チケット収入	349,700 円
自己資金 補助・助成金	
広告収入（パンフレット広告）	
協賛金・雑収入	3,040,583 円
寄付金（クラウドファンด์など）	
収 入 合 計	3,490,283 円
支 出	
作品借料長編 4 本・短編 8 本（手数料除く）	398,179 円
弁士・ゲスト謝金（劇団とっても便利）	200,000 円
コーディネイト費（キネコト）	400,000 円
翻訳料（長編短編各 10 万円）	200,000 円
会場使用料（大人定価入場者数×500 円）	120,500 円
上映技師料（映画センター）	572,400 円
ゲスト経費（海外及び国内ゲスト航空費・宿泊費）	245,323 円
交通費（子ども審査員・子どもスタッフ・大人スタッフ）	76,310 円
通信費	35,026 円
印刷費（チラシ・プログラム・チケット・ポスター）	501,400 円
記録費（写真・動画編集）	230,000 円
会議室料	10,740 円
宣伝費（マナー映像制作）	100,000 円
保険料（イベント保険）	6,680 円
消耗品・雑費（賞状・額）	29,754 円
支払手数料（クラウドファンด์・ローソンチケット・上映 作品支払い・振り込み手数料）	99,080 円
食費（弁当・交流会）	155,524 円
審査員招待企画（福島キッズ交通費など）	35,609 円
仕入（T シャツ）	89,580 円
支 出 合 計	3,506,105 円

第24回京都国際子ども映画 写真
入場受付



子ども審査員

最終日 集合写真



審査中



盛況です



ゲストと歓談

